

第74回秋季東北地区高等学校野球秋田県大会を終えて

秋田県高等学校野球連盟
会長 尾形徳昭

約1か月間にわたる大会が、好天にも恵まれ、昨日無事終了いたしました。能代松陽高校が2年連続7回目の優勝を果たし、今大会初めて決勝戦までコマを進めた由利高校が準優勝でした。第三代表は、準決勝で能代松陽高校に接戦の末敗れた明桜高校が、代表決定戦で横手清陵高校を大差で破ってその切符を勝ち取りました。秋田県の代表校となった3校には、来春のセンバツ甲子園大会の出場を目指し、高校生らしく、正々堂々と戦って、その栄誉を勝ち取ってもらいたいと思っています。

今年度から、これまでの3地区での予選を廃止し、全県一区でのシード決定トーナメント戦を経た上で、夏の甲子園予選と同じように加盟校全体での大会としました。少子化による加盟校の減少や、コロナウイルス感染拡大防止等を考慮した新しい大会運営方法での開催でしたが、多くの大会関係者の御尽力や御協力、観客の皆様の御理解と御協力、理事の先生方の献身的な労力によって、新しい運営方法での大会を終えることができました。まだまだ改善の余地はあろうかと思われませんが、今大会を支えてくださいましたすべての皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。

さて大会を振り返ってみますと、1、2回戦までの20試合ではコールドゲームが半数の10試合と、やや実力差があったものの、3回戦以降は、第三代表決定戦を除けばコールドゲームは1試合もなく、実力が全県的に均衡している様子がうかがえます。少人数のチームも見られましたが、大きな力の差は無く、戦い方次第では、上位進出の可能性も多くあったようでした。新チームを結成して2か月足らずの期間でしたが、1、2年生がよく鍛えられている感がありました。東北大会や甲子園大会に結果が結びつかなかったとしても、これまでの選手の皆さんや指導者の方々の努力は尊いものです。暑い時も苦しい時も、結果を出せずに精神的に悩んだ時も、そしてコロナウイルスの影響でいろいろな制約を受けながらも、自らができることを精一杯やってきたのですから、どうか自信を持ってください。これまでの歩みを止めず、次の目標に向かって邁進して行ってください。高校野球を通じて培った体力、技術、精神力はその後の人生において、きっと役に立ちます。ましてやそれが甲子園に結びついたとなれば、なおさらではないでしょうか。

今大会を通じ、球場にいらしていただいた観客の皆様には、新型コロナウイルスの感染拡大防止について、検温や手洗い、手指の消毒、観戦と応援についてのマナーを守るなど、御理解と御協力をいただきましたことに感謝と御礼を申し上げます。また、運営側の不手際から御迷惑をおかけしました点につきましては深くお詫び申し上げます。来年度は、これからいろいろな角度から今年度の大会について意見を交換し、よりよい大会運営をして参りますので、今後とも秋田県の高校野球に対する御支援と御協力をお願いします。

2022. 9. 26

追記：「表彰式でのあいさつ原稿」

【表彰式でのあいさつ原稿】

大会を終えるにあたり、主催者を代表致しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは本日の決勝戦、勝ちました秋田県立能代松陽高校の選手の皆さん、2年連続7回目の優勝おめでとう！！エース森岡君を中心とした堅い守りと、チャンスにたたみかける攻撃力と勝負強さには、目を見張るものがありました。隙の無い走塁などは、甲子園での経験が生かされていると感じました。本当に立派な優勝でした。

一方、準優勝の由利高校の選手の皆さん、敗れはしましたが、皆さんの1回戦から決勝戦までの6試合の戦いぶりはとても素晴らしいものがありました。その健闘を讃えます。エース関君の力投に加え、積極果敢な攻撃は相手チームに緊張感を与える力がありました。赤を基調とした貴校のユニフォームは、秋田県の高校野球界に爽やかな新風を巻き起こしてくれました。同時に、100年を超える貴校の歴史に新たな1ページを刻んでくれたものと思います。

さて、両校と第三代表の明桜高校は、来月10日から山形県で開催される秋季東北地区高等学校野球大会に出場します。御存知のように、この大会は来春のセンバツ甲子園大会につながる大会となります。本県代表3校の大活躍を願って止みません。どうか1つでも多く勝てるよう、高野連の「F」マークの理念を胸に頑張ってきてください。

最後になりましたが、今大会を支えていただきました秋田県野球協会審判部、進藤部長はじめ審判員の方々、こまちスタジアムほか4つの球場関係の皆様、選手の健康管理と怪我の対応に御尽力をいただきました秋田県医師会、並びに理学療法士と看護師の先生方、そして、コロナウイルス感染拡大防止に御理解と御協力をいただきながら、選手の熱いプレーを温かく見守り応援していただいた、たくさんの観客の皆様、すべての皆様に心より感謝と御礼を申し上げます、閉会の挨拶と致します。本当にありがとうございました。

令和4年9月25日(日)